多様な経験に触れた 人生観学んだ

市民講師にキャリアセミナー

東松島高 希望講座選択し聴講

多彩な分野で活躍する市民を講師に招き、生徒に生き方や働き方を考えさせる「キャリアセミナー」の注目度が、県内の高校で高まっている。キャリア教育を重視する東松島高（小笠原朋之校長、生徒268人）は全生徒を対象に先日、仙台市のNPO法人ハーベストの協力を得て、28講座を開いた。生徒が希望の2講座を選択し、講師の多様な社会経験に触れながら、人生観や職業意識、夢の実現へ努力と行動する大切さを学んだ。

体験を交えた外部講師の話を聞き、生き方を考える生徒たち＝東松島高

講師を務めたのは、経営者や公務員、学生ら。「コンプレックスは力になる」などのテーマを掲げ、自身の経験を基に生徒と会話形式で熱く語り合い、働き方や生き方を伝えた。

石巻市牡鹿生まれで、仙台市泉区で食品卸・小売会社「三陸オーシャン」を営む木村達男さん(58)。

公立高校の受験に失敗、進学した大学にも誇りが持てず、生命保険会社に就職する。コンプレックスを抱えながらも39歳、同期入社のトップで支社長に。その後、脱サラし起業、ホヤの加工販売に力を入れる。仙台にホヤ専門店を開く夢を描く。

木村さんは「若いころからコンプレックスを持って生きてきた。小さいことを積み重ね、あきらめなかった。自身に問い掛け、目標や夢に向かって挑戦し、努力してほしい」とエールを送った。

飲食店を経営する石巻市の会社社長木村美保子さんは「就職の面接試験で、会社側は履歴書の何を見るか。アルバイトの経験を見る」とアドバイス。木村さんは「アルバイト経験者は社会との接点があり、大人と会話ができる印象を受けた」と感想を話した。

「自分では見えない成長」などの講座を受講した2年次の高橋孝仁君(16)は「いろんな経験があり、何事もやらなければ始まらないと感じた。挑戦していくことの大切さが分かった。人との関係を大事にしていきたい」と、すっきりした表情で話した。

生徒たちは、多様な人生を歩む大人たちの思いに触れたことで、心が解放され、新たな一歩を踏み出すきっかけになったようだ。

NPO法人ハーベストのセミナー担当・松浦智博さんは「今の若者は、家族や先生など身近な大人とのかかわりしかなく、やりたい仕事を見つけるにも選択肢を知らない。多様な経験を持つ大人との出会いを通じて、生き方の参考にしてほしい」とセミナーの意義を強調した。

ハーベストによると、来年3月までに高校を中心に13校でセミナーが実施される。

中学、高校でキャリア教育の重要性が増している。東松島高は、生徒の進路設計の一助にする目的で実施した。

教育ひろば

2009年 11月 8日
石巻かほく　朝刊掲載